

# “輝け！ひぐみっ子” だより

～東汲沢小学校教育目標「学びあい 高めあい まちとともにあゆむ ひぐみっ子」～

☎861-5531 <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/higashigumisawa/>

## 共に学ぶひぐみっ子を見つめて

校長 丹羽正昇

横浜市指定無形民俗文化財である「お札まき」で有名な「とつか夏まつり」が、夏本番とアフターコロナを告げるように、四年ぶりに行われました。地域の納涼祭も復活する今年の夏は、例年以上に暑くなりそうです。学校はというと、いよいよ明日から8月27日までの間、長い夏休みに入ります。ひぐみっ子にとってはもちろん、保護者、地域の皆様にとっても、楽しい思い出に満ちた夏になることを願っております。

さて、今号では、題名にある共に学ぶひぐみっ子の姿をお伝えしたいと思います。実はこの言葉、ひぐみっ子の学びの姿を見た文部科学省の教科調査官(研究者)から贈られたものです。7月14日に行われた公開授業研究会では、4年生と5年生の学びの様子をもとに、授業や学びの在り方について研究討議がされました。その際、ひぐみっ子の様子を捉えて「お互いが共に学ぼうとする力が確実に付いてきている。」という評価を受けたのです。具体的な姿をいくつか挙げてみます。一人の子どもの課題の解決策を他の子どもと一緒に考える。あまり発言しない子どもにやさしく発言を促し、その子どもの考えを取り入れようとする。ばらばらの意見や考えから、なんとかグループで話をまとめ、よりよい考えにしようとするなどです。それら全てに共通していたのは、相手の話を真剣に聞き、とことん寄り添い合う姿でした。これらは、教育用語で「協働的な学び」と呼ばれています。一方で同じく教育用語で「個別最適な学び」と呼ばれているものがあります。これは、子ども自らが学びを創っていくという意味です。これからの学びには、二つの学びを一体的に充実させていくことが求められています。聞き慣れない言葉ですので、かなり難しい話に感じられることでしょう。もう少しだけ噛み砕いて説明してみます(うまくできなかったらすみません)。学ぶということ。もちろんそれは一人でもできます。しかし、一人で学ぶよりも、共に力を合わせて学ぶことで、一人では気が付かなかったことや、思い付かなかったアイデアが浮かんでくる。結果として、それが自分の学びを豊かにする。そういう学びこそ価値があるということです。思い返せば、御殿場宿泊体験学習でも、彼らは至るところでそのような姿を見せていました。実行委員による準備段階から、当日の宿泊施設の敷地で行われたオリエンテーリング、宿泊部屋での生活。あらゆる場面で、よりよい活動を目指して力を合わせていたのです。



このようなひぐみっ子の姿。少し前までの学校教育では実現できなかったと言ったら驚かれますか。自分が子どもの頃にも、同じようだったと思われた方もいらっしゃるでしょう。実は、外形的には同じに思えても、実質的には全く違う教育なのです。最大の違いは、教職員が子どもに学びを「委ねている」かどうかです。大人が用意した学習活動を子どもがこなすのではなく、自分の学びは自分でデザインして、最後まで責任をもって探究する。何を学びたいのか、どのように学びたいのか、誰と学びたいのかを、子どもが決めて実行していく学びと言い換えてもいいかもしれません。「〇〇をやりましょう」「□□という方法でやりなさい」ではなく、「〇〇を□□という方法で☆☆さんたちと学んでいきたい」これこそが、未来社会を生きる子どもに必要な学びの在り方です。一人ひとりの育ちを大切にしながら、仲間や友達と共に学べる環境のもと、自己決定・自己判断場面にあふれる教育の必要性を、ひぐみっ子は私たちに教えています。

※ひぐみっ子のすばらしい学びの姿に触発され、難解な話になったことをお詫びいたします。反省!